

プロ野球 準本拠地時代

ロッテ 実は仙台でパレードしていた

仙台市にかつて本拠地を置いたプロ野球ロッテオリオンズ（現千葉ロッテマリーンズ）を回顧する公開講座が、同市青葉区の仙台大川平キャンパスであった。ファン歴50年超の同大健康福祉学科の氏家靖浩教授（59）が当時のエピソードを楽しく紹介した。

仙台大教授が回顧講座

ロッテは1972年の東京スタジアム閉鎖に伴い、県営宮城球場を73年に準本拠地、74～77年に本拠地とした。氏家さんは仙台ゆかりのチームを深く知ろうと、新聞や文献の調査、関係者への聞き取りを各地で重ねている。

宮城球場での初のホームゲームは73年5月で、ナイターだった。氏家さんは「今の東北楽天につながる近鉄に13-0で勝った。当日の気温は11度。観客は3万3000人とされる。寒い中、本当にそんなにいたのか」と冗談を交えながら振り返った。

74年秋には宮城球場でリーグ優勝を決めた。しかし、中日との日本シリーズは本拠地以後楽園球場（東京）



当時の交通事情を交えながら、ロッテが仙台に定着しなかった背景を解説する氏家さん

73年のホーム初戦の前日にパレードをした。市中心部の商店街を選手たちが進み、（当時の）金田正一監督が市民から握手攻めにあった」と明かした。

金田監督が球場近くの中華食堂をひいきにしていた話や、選手の食事をJR仙台駅近くの老舗そば店が担

ったことも披露した。仙台大の公開講座は20日にあった。スポーツや健康をテーマに年40回程度開催する。定員は各回30人。受講無料で事前の申し込みが必要。同大のウェブサイトにある専用フォームから申し込む。

（田柳暁）